

声の教育社

宮崎文雄 氏

「平成 28 年度 東京都内私立高校入試結果と今後の入試動向」

## 平成 28 年 東京都内私立高校入試の動向

声の教育社 宮崎文雄

### 推薦入試は微増、一般入試は微減

最近 5 年間の東京都内私立高校の推薦入試、一般入試の応募者数を下記に示しました。昨年までは一般入試の志願者が連続して 2,000 名前後増加していました。これは、平成 22 年から始まった併願優遇制度を利用して都立高校を受験する形が浸透したことが原因と考えられます。併願優遇制度は 2/10 に解禁となる一般入試受験者を対象としているからです。

平成 28 年春卒業の都内の公立中学 3 年生は 79,749 名で前年より 738 名増加しました。推薦入試の応募者はそれに合わせた増加と見られますが、一般入試は逆に約 800 名の減少となったのです。これはここ数年には無かった現象です。その理由として考えられるのは、都立高校の入試制度の変更です。

今年度都立高校は特別選考を廃止するなど入試制度を変更しました。今まで、定員の一定数について、調査書点を加算しない選考を一部の進学校で実施していました。それが、原則 7 : 3 と学検に比重を置きながら、調査書点を 3 割カウントすることになり、調査書点が低い生徒が都立受験を回避し、私立高校の推薦へと流れるという現象が起こったのではないかと考えられています。私立推薦は昨年比約 400 名 (約 1.7%) の志願増となり、一般入試が約 800 名 (約 1%) 志願減となりました。

	平成 28 年(推計)	平成 27 年	平成 26 年	平成 25 年	平成 24 年
推薦応募数	25, 300	24, 869	24, 933	25, 817	26, 188
一般応募数	81, 600	82, 340	80, 151	77, 353	74, 247
合計	106, 900	107, 209	105, 084	103, 170	101, 435

### 千葉県の公立入試による影響

また、東京都の私立高校の応募者は、近県の公立高校の入試日程の変更により増減することがあります。千葉県公立高校は昨年 2/12・13 に前期選抜を実施していましたが、今年は 2/9・10 と 3 日間日程を前倒ししたため、公立第一志望の受験生は 2/10 の東京都内の私立高校は受験できなくなりました。そのため東京の私学協会では、千葉県内生が東京都内私立高校の一般入試を受け難くなったことへの救済処置として、千葉県内生に限り一般入試の解禁日を 2/5 に設定しました。しかし、この制度を利用して 2/10 前に入試を実施したのは 9 校に止まりました。

逆に千葉県公立前期選抜が前倒したことによって受験可能となった学校もあります。2/11 の早大高等学院、城北、本郷、豊島岡女子、駒込などは日程的には厳しいものの受験可能となりました。12 日の慶應義塾、青山学院、明治大付明治、13 日の国立高校などは受験日が重ならなかったため、千葉県内の上位層はチャンスが広がりました。

来年度は千葉県公立前期入試は 4 日繰り下げて 2/13,14 となることが発表されています。毎年 2/13 に実施している国立高校が併願できなくなるほか、千葉県から受験生の多い私立高校では試験日を移

動することが考えられるため受験日に注意が必要です。また、日程変更した学校と競合する学校の動向にも注意したいところです。

## 東京の共学化の動向

昨年は、東洋大京北と三田国際学園が共学化に踏み切り大人気になりました。近年の共学化は、単に男女共学とするだけでなく、校名変更、学科コースの改編、グローバル化などの変更を伴うことが多く、応募者の増加や学力レベル上昇の激しい変化が見られます。

今年も、神奈川県**法政大第二**が共学化としました。法政大第二は都内からの受験者も多く高レベルの入試となりました。一方、都内私立高校に共学化の変更はありませんでした。

来年は**新渡戸文化**と**芝浦工業大**が共学化とする予定です。新渡戸文化は3年前から予定されていたもので、中学から学年進行で、共学化した内部生の進学に合わせた変更となる予定です。芝浦工業大は来年4月に大学キャンパスのある豊洲に移転し、**芝浦工業大学附属**と校名変更し、女子クラスを1クラス(25～30名程度)設置する予定です。最近では話題性の多い学校に人気が集まる傾向があります。豊洲というイメージと新校舎、共学化と話題性が豊富なので、非常な人気となりそうです。

## 大学付属高校の動向

私立高校には公立高校にない特色を持つ学校があります。その一つは大学付属高校です。系列大学への優先入学などの特典がありますので、基本的に大学受験が免除されることとなります。

**慶應義塾女子**は系列の慶應義塾大学医学部に5名の推薦枠を持っていることなどの魅力もあり女子校最難関校です。20名の推薦入試枠に120名の応募者あり人気が続いています。今年是一般入試でも応募者が増え、80名の枠に488名が挑み3.18倍の高倍率となりました。昨年は合格発表後に問題のミスが発覚し、補欠合格者34名が正規合格となる事態となり2.44倍の例年より低い倍率だったことから一転した厳しい入試でした。

ところで、神奈川の男子校で系列大学医学部に22名の推薦枠を持つ**慶應義塾**が、昨年から入試日を1日前倒して2/12に参入しました。この学校は毎年2,000名近い受験生が集まる大規模校なので都内の2/12入試実施の大学付属校などに影響がありました。昨年は、明治大付属中野、明治大明治、青山学院などの男子の応募者が軒並みダウンしました。今年その反動が現れたのは**青山学院**(男子257→331名)だけで、**明治大付属中野**(882→861名)、**明治大明治**(335→275名)は回復はしませんでした。

一方、慶應義塾が移動したため受験者を増やした国立大付属ですが、**筑波大付属駒場**は(146→139名)と**筑波大付属**は(男子433→427名)と減少、**東京学芸大付属**だけが(男子487→577名)と増加し6.17倍という高倍率となりました。

## 学科・コースの新設・改変などで注目される学校

近年の志願者の志向を踏まえ、工業系・実業系学科・コースを廃止・縮小し、普通科を拡充する学校が増えています。**駒込**はグローバル教育を核とする国際教養コースを新設しました。試験科目から

数学を外し国英社で選抜することも注目され高レベルの入試となりました。その他にも**富士見丘**がグローバルコース、**東京女子学院**が外国語コースを新設しました。また、理数教育に重心を置くコースも注目されていて、「グローバル」と「サイエンス」がトレンドとなっています。明星は MGS（グローバルサイエンスクラス）という両方組み合わせたクラスを新設しました。

また、特進コースの中にさらに上位のコースを新設する学校もここ数年増加しています。これらの学校は応募者増に結びつくケースが多いようです。ただネーミングもさまざまで、「スーパー特進」「東大クラス」「プレミアム」「アドバンス」などその学校には今までに無いイメージをいだかせるものが多いようです。

ところで、人気となった学校の中には、応募者が増えて難易度が上がると翌年は敬遠されて応募者が減ることがあります。また、応募者が減るとその翌年は易化したと見られて応募者が増えるという現象を隔年で繰り返すケースがあります。この現象は「隔年現象」といわれていますが、学校の特性が似ている競合校が近くにある場合に比較的多く表れるようです。

### 併願優遇制度の浸透

東京都内の私立高校の多くは併願優遇制度を設けています。これは、受験する私立高校を第二志望とし、第一志望の公立高校が不合格だった場合には必ずその私立高校に入学するということを前提に一般入試の合格を優遇的に扱ってもらえる制度で、12/15以降の中学校の先生を介した入試相談を経て基準をクリアしている場合に得られる特典です。神奈川県や千葉県を受験生も対象としています。埼玉県生は今のところ個人相談を主体としているため、「B 推薦」と言われている併願推薦を受験するケースがほとんどです。

**桐朋女子**（86→92名）、**日本大櫻丘**（457→547名）、**日本大豊山**（266→350名）などは併願優遇制度を新規導入して注目を集めました。また、併願優遇制度を再開した**関東国際**（377→419名）も同様の人気となりました。このように併願優遇制度導入校が増え受験パターンとして定着してくると、都立志望者はこの制度を利用して安心して本命校を目指すことが一般的になって来ました。

このほか、都県の教育行政上の制度によって応募数の動向に変化が現れるケースがあります。埼玉との隣接地域では埼玉県からの受験生が減少傾向となっていますが、これは国の就学支援金に上乗せして受け取れる助成金とその都県在住者のみに限定されていることから、都県を越えての受験にブレ一キがかかったと考えられます。

### 募集定員増や推薦基準の緩急の影響

併設中学校からの進学が減少するなどの影響で高校の募集を開始したり、募集定員を増やす学校が多くなりました。一般に定員増は応募増へとつながりますが、公立高校入試の変動や受験地域の変化などさまざまに影響を受けて応募減となった学校もあります。今後も中学受験の沈静化、進路の多様化などを背景に高校の募集数の拡大が予想されます。高校入試は「広き門」となる傾向だと言えます。

次に、基準の緩急による影響についてです。ほとんどの私立高校には推薦基準や併願優遇基準があります。この基準の数字に変更があると、応募数にすぐに影響が出ます。前年の入学者が多かったた

め基準を厳しくし応募者が減少する学校があります。**東洋**（1373→798名）は特進選抜以外の併願優遇を廃止したことによって大幅に減少しました。逆に基準を弾力的に運用したことによって応募者が増えたケースも見られました。特に女子に対する基準の緩和が多いようです。

### 特待生制度の拡大の影響

ほとんどの私立高校には特待生制度があります。学校によって名称や対象はさまざまですが、一般的には成績優秀者に対して授業料を減免する制度や奨学金などが支給される制度を指します。学校によって制度によっては減免額や支給額にランクがあります。これらの運用の幅の増減や特待生制度の浸透度が応募者の増減に大きく影響します。

**駒込**には国の就学支援金や都の授業料軽減助成制度と授業料との差額を学校側が負担するという『駒込学園減免制度』があります。これは高校入学生30名程度という定員制ですが、他校にない独特な制度として注目されています。

### 平成29年の都内私立高校の入試動向

平成29年入試で高校募集を停止する学校が千葉県の**東邦大付属東邦**です。千葉県内の最上位校の一つですのでその影響が懸念されています。1/18に入試を行っている学校なので、同日入試校の**昭和学院秀英**にその層が移行すると考えられます。当然高レベルの競争となるでしょう。しかし、その学校に合格するかどうかが千葉県寄りの東京の学校や早慶などの併願挑戦校にも影響を及ぼしそうです。

また、都内で高校募集を再開する学校が明らかになりました。**麹町学園女子**です。中学からの内進生の減少が原因で、今後このような学校が出てきそうです。

ところで、近年鉄道網が進化しています。昨年は宇都宮線、高崎線、常磐線の東京駅乗り入れが実現し、東海道線と直通でつながりました。これにより、南北の通学が非常に便利になりました。受験生にとっては学校選択の幅が広がる結果となりました。また、耐震等の事情で校舎を新築する学校が増えています。この場合はほとんど人気となります。また、平成32年の東京オリンピックに向けて交通網の整備、開発が進んでいる地域もあります。

受験校を選択する上では、共学、移転、校名・学科コース・入試日などの変更、基準の緩和、また競合校の大きな変更点などに注意しなければなりません。最新情報を学校案内書やホームページなどで収集する必要があります。

### 東大合格数の公私比較

今年の日比谷高校をはじめとする都立高校や都立中高一貫校の大学合格実績が伸びています。しかし、私立高校はそれ以上の大学合格実績があります。それは特別なカリキュラム編成ができ、特進コースなどの進学に特化したコース設定が可能だからです。東大合格数が一つのバロメーターとしてよく使われていますが、それを見ても、私立高校の合格実績が都立高校を大きく引き離しているのが分かります。東京の私立高校は全国的にも突出した大学合格実績があります。およそ3100名の東大合

格者の25%前後が東京の私立高校の卒業生ということになります。平成29年入試を予測する上で、東大合格者数が伸びた学校に注意が必要です。

	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年
私立高校	768	844	735	751	792
都立高校	171	136	136	140	105
合 計	939	980	871	891	897

(サンデー毎日より)

### 私立高校の授業料負担軽減制度

国の就学支援金制度、都の授業料軽減助成制度が大きく変わりました。以前は私立高校に通うすべての生徒に118,800円の支援金が支給されていましたが、平成26年4月入学生からは世帯年収で約910万円(夫婦と子供2人の4人家族のめやす)以上の家庭には支給されなくなりました。都内在住で一定の収入以下の者はこの就学支援金に加えて東京都の授業料軽減助成金制度による助成金を上乘せして受け取ることができず、就学支援金も一律分の118,800円のほか世帯年収に応じて加算分も受け取れることがあります。これらの就学支援金と授業料軽減助成金は所得の低い家庭により強く応援する制度ですので、ぐんと私立高校に通いやすくなりました。

これらの制度の利用に関しては東京都私学就学支援金センター(03-5206-7925)に問い合わせてください。私立高校の先生に気軽に相談するのもよいと思います。

以下は授業料負担軽減制度のめやすです。この他にも、東京都育英資金・入学支度金(貸付)などの制度もあります。

### 世帯の年収の別学費軽減額(平成27年度の内容です)

	住民税額 約910万円未満	住民税額 約760万円未満	住民税額 約590万円未満	住民税額 約350万円未満	住民税額 約250万円未満
就学支援金一律	118,800	118,800	118,800	118,800	118,800
就学支援金加算	—	—	59,400	118,800	178,200
都の授業料軽減助成	—	104,400	104,400	129,600	90,000
合 計	118,800	223,200	282,600	367,200	387,000

※生活保護世帯は他に助成加算があります

## h 2 8 都立全日制高校入試結果

(公立中3生は志望校調査時の数値＝都立中学を含まない)(志望調査時の定員は編入分等を除く)

入試年度 (中学年度)	公立中		定員		推薦選抜				一般選抜 (編入子女等除く)				志向 率		
	3生	3生	発表時	調査時	定員	受験	合格	倍率	不合格	定員	受験	合格		倍率	不合格
h 2 0	72447	72447	40230	38978	10446	30134	10443	2.89	19691	28432	38515	28981	1.33	9534	<b>67.6%</b>
リーマンシヨック (9月)															
<b>h 2 1</b>	72968	72968	40540	39332	10580	31093	10579	2.94	20514	28585	40184	29181	1.38	11003	<b>69.6%</b>
h 2 2	76929	76929	42240	40989	11077	33552	11077	3.03	22475	29743	42784	30329	1.41	12455	70.0%
h 2 3	73560	73560	40350	39105	10592	30796	10586	2.91	20210	28340	40395	28872	1.40	11523	69.3%
h 2 4	75668	75668	41545	40272	10809	31170	10809	2.88	20361	29265	42013	29675	1.42	12338	69.8%
h 2 5	75842	75842	41705	40397	9173	29416	9173	3.21	20243	31023	44310	31335	1.41	12975	70.5%
<b>推薦入試増</b>															
h 2 6	77471	77471	42425	41017	9120	29496	9120	3.23	20376	31693	45148	31941	1.41	13207	70.0%
(h 2 5)	<b>+1629増</b>		+720												
h 2 7	77354	77354	42225	40928	9050	28166	9047	3.11	19119	31655	44732	31833	1.41	12899	69.5%
(h 2 6)	<b>-117減</b>		-200												
h 2 8	78115	78115	42505	41206	9105	27581	9105	<b>3.03</b>	18476	31834	45413	32026	<b>1.42</b>	<b>13387</b>	<b>69.8%</b>
<b>一般入試増</b>			<b>+761増</b>												
h 2 9	<b>-70</b>		<b>0~-+40</b>												
(h 2 8)	5年間減														

「π 3. 1 4」小数点を移動して「3」と「1. 4」推薦選抜約**3倍 (3.03)**と一般選抜約**1. 4倍 (1.42)**

一般選抜 実質 1.42 倍

**10人のうち3人不合格、1万3千名超の不合格 (昼夜間定時制を含めると1万4千名の不合格)**  
**3校に1校が100名超の不合格 中堅校の不合格増 普通科女子の不合格増**  
 (100名超の不合格校は**5校**＝増加 昼夜間定時制を含めると57校)

## h 2 8 都立全日制高校 募集人員の前年比較

	h 2 8	h 2 7	増減	備考
学校数	1 7 3校	1 7 3校	0校	学級減：11校 (-11学級)
学級数	1 0 8 8学級	1 0 8 1学級	+ 7学級	学級増：18校 (+18学級)
募集人員	4 2 5 0 5 (推薦 9105)	4 2 2 2 5 (推薦 9050)	+ 2 8 0 (+ 5 5)	計：+ 7学級増 ( )内の人数は推薦募集人員

**学級減** ( )内は一般入試の実質倍率の変化 前年→今年

**青山** (M2.09→2.07・F1.96→2.06) **向丘** (M1.50→1.81・F1.95→1.83) **大山** (M1.25→1.30・F1.16→1.21)

**小松川** (M1.45→1.53・F1.37→1.31) **江戸川** (M1.36→1.74・F1.80→1.61) **栗** (M1.57→1.92・F1.45→1.68)

**日本橋** (M1.25→1.34・F1.44→1.48) **久留米西** (M1.30→1.39・F1.07→1.42) **東村山西** (M1.34→1.28・F1.32→1.55)

**柏江** (M1.73→1.50・F1.33→1.50) **府中西** (M1.13→1.18・F1.27→1.20)

学級増 ( ) 内は一般入試の実質倍率の変化 前年→今年

三田 (M2.30→1.56・F 1.96→2.00) 大森 (M1.02→1.05・F 1.05→1.22) 駒場 (M1.74→1.40・F 1.68→1.54)  
広尾 (M2.17→1.95・F 2.03→2.62) 井草 (M1.25→1.07・F 1.48→1.33) 鷺宮 (M1.72→1.77・F 1.79→1.60)  
田柄 (M1.47→1.15・F 1.59→1.58) 竹早 (M1.47→1.42・F 1.70→1.87) 高島 (M1.43→1.42・F 1.47→1.65)  
足立 (M1.36→1.28・F 1.27→1.13) 本所 (M1.37→1.60・F 1.69→1.75) 紅葉川 (M1.47→1.40・F 1.32→1.47)  
日野 (M1.26→1.24・F 1.13→1.30) 八王子北 (M1.33→1.30・F 1.39→1.53) 東大和 (M1.52→1.22・F 1.36→1.17)  
小平 (M1.68→1.66・F 1.82→1.61) 小平西 (M1.15→1.60・F 1.34→1.36) 晴海総合 (1.55→1.14)

h 2 9 (次年度) 募集人員予測

公立中学3年生 (都立中学を除く) は前年比で、わずかに約70名減少する

都立高校がその50%~60%を受け皿として募集調整する

募集人員は0名~40名 (0学級~1学級) 減少すると推測する

h 2 8 入試概況

志望校調査時~一般入試志望校長調査時、学科別にみると、商業科・工業科の志望者減が止まらない。専門色ははっきりと伝わる学科、時代の要請(グローバル化・情報技術化…)に即した学科は人気があり、募集規模によって倍率が上下している。高倍率の国際科は志望がやや落ち着く。普通科は離間校男子の減少が目立つ。一般入試の特別選考(学力検査だけで選抜する枠)中止により離間私立高校への第1志望変更も考えられる。普通科女子は全般的に志望増加の傾向。下町地区(旧6学区)、多摩西部(旧7学区)の普通科中堅校の増加が目立つ。高倍率校で最近のボーダー(翌年度の合格基準)が上昇している学校の志望者が少なくなっている=志望増の一服もぎテラストを受験した際の基準が上がっている(前年より判定がきびしい)ことによる現象ともいえる。

推薦枠はこの数年間で、普通科20%(エンカレッジは30%)、専門学科他30%(商業高校の商業科は従来より20%)に収まっている。25年度より推薦入試が変更された。28年度より一般入試の選抜が変更された。課程や学科等に基づき選抜の共通化・簡素化が図られ(全日制高校は原則5教科、学力検査と内申の比率7:3に統一)、また内申換算方法も変更される(全日制高校5教科×1+技能教科×2の65点満点)。3教科→5教科入試の変化がある国際・田柄男子・野津田・松が谷(外国語コース)・晴海総合・商業科(荒川・第三)の志望減の遠因になっている。

中高一貫校からの志望移動は同レベルあるいは次善しレベルの学校に影響を及ぼしている。志望増(受験増)の結果から次年度合格基準を上げることにより、さらに次の層への志望移動も目立つ。合格基準700~800点の学校の志望増から650~750点の学校の志望増へと、連鎖が起こっている。このゾーンの学校が進学指導の特別推進校や推進校、あるいはもう一步の学校と重なる。三田・小山台・新宿・駒場・目黒・豊多摩・井草・竹早・北園・文京・上野・江北・清瀬・調布北・狛江など。さらに雪谷・田園調布・広尾・石神井・豊島・成瀬・小平・神代・調布南へと金井北・清瀬・調布北・狛江など。さらに雪谷・田園調布・広尾・石神井・豊島・成瀬・小平・神代・調布南へと続く。

併設型中高一貫校、武蔵・両国・白鷗・大泉・富士は2学級という外部募集枠、国数英についてのグループ作成問題、すでに附属中学で3年間学校生活を過ごしている内進生への意識など、志望者が限られる要因がある。学力向上・進学対策で成果をあげている学校でも敬遠傾向があらわれる。附属中学入試と高校入試の倍率の違いに学校関係者も戸惑っている。

新校舎、新制服、新しいタイアの学校、地の利のよい学校、専門教育色の強い学校、居心地のよい楽しい学校、進学案簿に安心感のある学校の人気は高い。すでに制服をリニューアルした学校、推奨服・標準服・制服を段階的に導入した学校は、特に女子の志望者に影響を与える。校舎を改築・新築した学校、工事途中の学校、さらに実施設計段階に入っている学校は、説明会に参加した受験生・保護者に影響を及ぼす。高校3年間の学校生活を念頭に置けば、グラウンド整備や各種施設改修の状況も重要である。



この数年間に**新校舎**が完成した学校として、**日比谷・大森・大泉・鷺宮・足立・足立新田・小岩・松が谷・八王子北・昭和・武蔵野北・小金井北・保谷・調布南・第三商業・第五商業・練馬工業・王子総合・多摩科学技術**があげられる。今後、千歳丘・板橋・江北・南葛飾・城東・篠崎・日野台・小平南・神代・第四商業・中野工業が続く。生活指導の一環から服装や頭髮の指導を強化する伝統校は、志望者を減らすのが、学校改革（例えば学力向上策）とあいまって信頼を増してくれば、志望回復してくる。一例として石神井・武蔵丘・広尾があげられる。外国語教育（異文化交流）に期待をかける受験生・保護者が増えている。**国際（27年度国際バカロレアコース新設 同認定校となる）・三田・柏江・飛鳥・千早・外国語コース（深川・松が谷・小平）**は志望の基調が強い。授業時間を増やすため、平日の部活の時間を確保するため、自由選択科目を縮小して、年間20日以内で土曜授業を導入している都立高校が60校弱あると聞く。27年度は、雪谷・杉並・小岩で土曜授業を実施、28年度（この4月から）は、鷺宮で実施、29年度は、竹早が実施予定。27年度に制服をリニューアルしているのが、大森・晴海総合・科学技術・第五商業、28年度（この4月から）にリニューアルするのが、小平西、特に女子の合格率の結果に結びついている。

都立定時制単位制高校（昼間部・夜間部）の志望は流動性があるものの、倍率は高め。28年度はやや落ち着く生徒の多様性、不登校、学び直しに対応する期待度は高い。中退率の防止にもつながっている。居心地のよさなどからも志向が強い。定時制の学費は全日制よりもかなり安価だが、公立高校の就学支援金制度（授業料無償に所得制限がある）で、授業料についての差はなくなっているケースが多い。今後、このタイプの学校を増やす新計画案が発表されている（足立地区[34年度、荒川商業を改編]・立川地区[35年度、新設]）

24年2月に今後10年間の**都立高校改革推進計画**を公表している（24年度～33年度を3期に分けている）1期（～27年度）は改革のための学校指定や各種支援がなされている。2・3期（28～33年度+α）は特に**専門学校の再編統合や新設や学科転換**を予定している（改革推進計画・新実施計画を28年2月に決定）。25年度から完全実施の高等学校新学習指導要領に基づき、カリキュラムが変更されている。都教委作成の学力スタンダード（単元ごとの具体的な達成内容）から各高校作成の学力スタンダード（当初は推進校1年生、2年目の前年度は同2年生と各高校1年生、3年目の今年度は各高校2年生へと広がっている）へと何百通りの具体的独自内容ができていく。何をどの程度学べばよいかを示して、さらに検証のため調査・学力考査も実施している。都立専門高校では技術スタンダードも示している。

現在、大学入試のセンター試験（マークシート方式）で約55万人という受験生を1ヶ月で処理している。センター試験を廃止する方向で、高大接続改革が進められている。**高等学校基礎学力テスト（仮称）は、31年度～34年度**（＝現高等学校学習指導要領下で高校2年生から＝大学入試等に用いない）に試行、**35年度**（＝次期高等学校学習指導要領下で高校2年生から）から本格実施する。**大学入学希望者学力評価テスト（仮称）は、32年度～35年度**（＝現高等学校学習指導要領下で高校3年生に）に課題を検証・解決しながら実施、**36年度**（次期高等学校学習指導要領下で高校3年生に）につなげていく。「**知識・技能**」だけでなく、「**思考力・判断力・表現力**」を総合的に評価していくことが重視される。**記述式の問題も導入**される。高校では、教科書の製作や検定を経て、34年度に次期学習指導要領が全面实施される。早ければ36年度に、上記テストをCBT解答方式（コンピュータ受験）に切り替えることも、話題になっている。28年3月（先日）に、大学入試改革を議論してきた文部科学省の高大接続システム会議が検討結果をまとめた原案を公表している。

●日比谷と戸山の男子 ここ3年間の一般受験状況

学校名	年度	定員	応募者	応募倍率	受験者	合格者	実質倍率	不合格者
日比谷	26	131	400	2.99	305	150	2.03	155
	27	133	432	3.25	323	148	2.18	175
	28	133	335	2.52	241	149	1.62	92
戸山	26	150	399	2.66	326	158	2.06	168
	27	133	367	2.76	298	141	2.11	157
	28	133	312	2.35	248	141	1.76	107

●一般入試最終応募倍率の変化

	男子		女子	
	27年度 →	28年度	27年度 →	28年度
目黒	1.71 →	1.92	1.89 →	2.49
広尾	2.27 →	2.32	2.46 →	2.85
文京	1.63 →	1.73	1.81 →	1.99
東	1.50 →	1.81	1.67 →	1.92
富士森	1.31 →	1.56	1.36 →	1.68
昭和	1.68 →	1.90	1.71 →	1.96
小平南	1.33 →	1.66	1.63 →	1.79

**h28 一般入試 応募者の移動 例**

最上位校 チャレンジ志向が一般 低内申者の流出 (特別選考 [10:0 選抜=入試得点のみ選抜] の廃止)  
 上位中堅校 基準アップにより次善校への移動

専門学科 普通科への移動→専門学科への再移動 その後の調整 (志望→出願 願書の取下げ→再提出)

日比谷男子・戸山男子・立川男子 → 難関私立・新宿男子  
 西女子・日比谷女子・戸山女子 → 難関私立・八王子東女子・小山台女子  
 国際・新宿女子 → 小山台女子・武蔵野北女子・国分寺女子・武蔵女子・竹早女子・三田女子・多摩科学技術女子  
 駒場男子・武蔵野北男子・小金井北男子・富士男子 → 多摩科学技術男子・豊多摩男子・井草男子・目黒男子  
 町田男子・小金井北男子 → 日野台男子・昭和男子  
 小松川女子・北園女子・城東女子・大泉女子・白鷗女子 → 文京女子・目黒女子  
 三田男子・白鷗男子・北園男子 → 文京男子・上野男子  
 富士女子・小金井北女子・調布北女子 → 多摩科学技術女子・目黒女子  
 城東男子・墨田川男子 → 江戸川男子・深川男子・江北男子・広尾男子  
 調布南男子・神代男子・芦花男子 → 広尾男子・杉並男子  
 狛江男子 → 成瀬男子  
 狛江女子・翔陽女子 → 成瀬女子  
 清瀬男子・富士男子・豊島男子 → 小平男子・東大和南男子・石神井男子・小平南男子・武蔵丘男子・向丘男子  
 清瀬女子・大泉女子・石神井女子 → 小平女子・小平南女子・杉並女子・武蔵岡女子・豊島女子・保谷女子  
 江戸川女子・墨田川女子 → 深川女子・本所女子  
 向丘女子 → 本所女子・高島女子  
 つばさ総合男子・世田谷総合男子 → 大崎男子  
 大崎女子・つばさ総合女子・芦花女子 → 美原女子・大田桜台女子・桜町女子・世田谷総合女子  
 東大和男子・芦花男子・神代男子・調布南男子 → 日野男子・富士森男子・松が谷男子・小川男子・杉並総合男子  
 翔陽女子・松が谷外国語女子・芦花女子 → 上水女子・日野女子・富士森女子・松が谷女子・小川女子  
 科学技術男子・晴海総合男子 → 田園調布男子・東男子・本所男子・小岩男子・紅葉川男子・足立男子  
 科学技術女子・晴海総合女子 → 本所女子・小岩女子・紅葉川女子  
 府中西女子・府中東女子 → 片倉女子・八王子北女子・山崎女子・小平西女子・永山女子  
 東久留米総合男子 → 鷺宮男子  
 東久留米総合女子 → 大泉桜女子・田無女子・小平西女子  
 練馬男子 → 大泉桜男子・千歳丘男子  
 砂川男女 → 福生男女・武蔵村山男女  
 拝島男女 → 羽村男女  
 久留米西男子・東村山西男子 → 小平西男子  
 商業高校 → 大田桜台  
 王子総合女子・小平外国語・向丘女子・飛鳥女子 → 千早女子

世田谷総合男子 → 千歳丘男子・深沢男子  
 板橋有徳男子 → 王子総合男子  
 板橋有徳女子 → 大泉桜女子  
 多摩男子・多摩工業男子 → ?

## h28 一般入試の選抜方法の変更

選抜方法を課程・学科で「共通化」「簡素化」へ  
 受検生・保護者・中学校にわかりやすい制度へ

### 第1次募集 2月実施

学力検査	学力検査と調査書の比率	内申換算
全日制 原則 <b>5教科</b> (従来は5教科～3教科で実施)	原則 <b>7:3</b> (従来は7:3~4:6)	5教科×1+ <b>実技4教科×2</b> = <b>65点満点</b> (従来は5教科×1+実技4教科×1.3=51.1点満点 3教科実施校は社理・実技計の6教科×1.2=51.1点満点)
定時制 5教科	7:3 or 6:4	以上と同

実技を実施する総合芸術(音楽・美術・舞台表現)・駒場(保体)・野津田(体育)は3教科・内申7.5点満点  
 その他の検査として、従来同様に面接、作文(小論文)、実技を実施できる(配点の上限をなくす)  
 定時制は面接を必須として実施

### 第2次募集 3月実施

学力検査	学力検査と調査書の比率	内申換算
全日制 3教科	6:4	3教科×1+実技4教科×2 +社理×1 or 2=6.5点 or 7.5点満点?
定時制 3教科	6:4 or 5:5	以上と同

その他の検査として、面接、作文(小論文)、実技を実施できる(配点の上限をなくす)  
 定時制は面接を必須として実施

分割募集	継続実施
<b>特別選考</b>	<b>廃止</b>
<b>傾斜配点</b>	特別な教育課程を実施している学校について、学力検査で <b>実施</b> <b>内申の傾斜配点では認められない</b> (新宿・国分寺→中止)
男女別定員制の緩和	継続実施

